

とて是等の後なる子に汝の産業の兄弟の
 名をもて稱するべし我事をいへん我昔パダより來れる時ラケル我もまたひをりて送てカナン
 の地を死に其處にニラマまで前途の隔あるところなりわれ彼處わてかれをエラマの送ははらひれり
 (エラマはすはちベツレムなり) 斯てイラエラヨセフの子等を見て是等ハ誰なるやといひかれ
 ヨセフ父といふ是ハ神の此おて我におたまひし子等なりと父すよはちいふ請ふ彼ら我所かつれきたれ
 我これを見せんと イラエラヨセフの目ハ年暮のためか眼を見るをえきりしかヨセフかれらをもつれ
 きたりければ之を接吻してこれを抱けり ちかしてイラエラヨセフといひけるハ我なんぢの面を見る
 わらんぞハ思ひぎりしハ神よ神なんぢの子をもわれおたまひしたまふと ヨセフかれらをもつれ膝の間より
 いたし地を俯て拜せり ちかしてヨセフエラマヨセフを右の手を執てヤコブの左の手を執てはちて
 左の手を執てヤコブの右の手を執てはちて二人をみちびきてかれを執りてイラエラヨセフの右の手を
 べて季子ニラマの頭を披き左の手をのべてマナセの頭をおけりマナセハ長子されども故かふる
 手をおけるかり 斯てヨセフを視ていふわが父アブラハムイサカカノ事へし神が生れてより今日ま
 だ我をやしきたりたまひし神を我を贖たまひし天使がてくハ是童子等を視たまへ
 ぬがてくハ是等の者わが名どわが父アブラハムイサカの名をもて稱されんことをぬがてくハ是等地の中
 ち繁殖るおいたれ ヨセフ父が右の手をエラマの頭に披るを見てよろこぶ父の手をわけてこれ
 エラマの頭よりマナセの頭をつざんとす ヨセフすなち父といひけるハ然わあらず父ハ長子
 されバ右の手をの頭を披たまへ 父ふばみていひけるハ我知るわが子よわれ知る彼も一の民となり彼

三節五九六十九
 一節五九七〇
 二節五九七一
 三節五九七二
 四節五九七三
 五節五九七四
 六節五九七五
 七節五九七六
 八節五九七七
 九節五九七八
 十節五九七九
 十一節五九八〇
 十二節五九八一
 十三節五九八二
 十四節五九八三
 十五節五九八四
 十六節五九八五
 十七節五九八六
 十八節五九八七
 十九節五九八八
 二十節五九八九
 二十一節五九九〇
 二十二節五九九一
 二十三節五九九二
 二十四節五九九三
 二十五節五九九四
 二十六節五九九五
 二十七節五九九六
 二十八節五九九七
 二十九節五九九八
 三十節五九九九
 三十一節六〇〇〇

も大なる者となりての弟ハ彼よりも大なる者となりての子孫ハ多衆の國民あるべしと 此
 日彼等を視ていふイラエラマ汝を指て人を祝し願へん神汝をしてエラマのなとマナセのてどく
 ちらしめたまへといふおいたらんはずなりちニラマをマナセの先わたたり イラエラマはヨセ
 フといひけるハ死にされし神なんぢらどもわいせして汝等を先神等の國おみちびきかへり
 たまふべし 且われ一は分をあなた兄弟よりもおほく汝をおたまはふわが力とを以てアモリ人の手よ
 り取たる者なり
第四十九章
 ヤコブの子等を呼ていひけるハ汝らいつされ我後の日わ汝らに遇んぞこの事を汝
 等おつげん 汝等とて聽けヤコブの子等よ汝らの父イラエラマも聽け 汝らわが家子わが勢
 わが力の始威光の卓越たる者權威ハ卓越する者なり 汝ハ水の淵あるがてき者なれば卓越を得ざる
 べし汝父の床のぼりて泣きたれハなり嗚呼彼ハわが寢床のぼりて泣きたれハ兄弟なりとの劍
 ハ暴逆の器なり 我魂よかれらの胸のなむなかれ我實よかれらの集會つらなるなかれ其ハ彼等
 の怒おまかせて人をころしよの意おまかせて牛を筋截たればなり 一の怒ハ烈かれバ詛ふべしとの憤ハ
 暴おれ乱ふべし我彼らをやコブの中お分ちイラエラマの中お散さん ヨセフ汝ハ兄弟の讀る者なり汝
 の手ハあなた方の敵の頭を仰へんあなた方の父の子等あなた方の前を鞠ん ヨセフ獅子の子の如しわが子ハ汝
 ハ所掠物をさきてかへりのぼる成ハ牡獅子のおどく伏し批獅のてどく躡する誰か之をかてすことせん
 民たがふべし 彼らの驢馬を葡萄の樹お繋ぎの牝驢馬の子を葡萄の樹お繋ぎの女又の衣を酒わら

一節六〇〇一
 二節六〇〇二
 三節六〇〇三
 四節六〇〇四
 五節六〇〇五
 六節六〇〇六
 七節六〇〇七
 八節六〇〇八
 九節六〇〇九
 十節六〇一〇
 十一節六〇一一
 十二節六〇一二
 十三節六〇一三
 十四節六〇一四
 十五節六〇一五
 十六節六〇一六
 十七節六〇一七
 十八節六〇一八
 十九節六〇一九
 二十節六〇二〇
 二十一節六〇二一
 二十二節六〇二二
 二十三節六〇二三
 二十四節六〇二四
 二十五節六〇二五
 二十六節六〇二六
 二十七節六〇二七
 二十八節六〇二八
 二十九節六〇二九
 三十節六〇三〇
 三十一節六〇三一
 三十二節六〇三二
 三十三節六〇三三
 三十四節六〇三四
 三十五節六〇三五
 三十六節六〇三六
 三十七節六〇三七
 三十八節六〇三八
 三十九節六〇三九
 四十節六〇四〇
 四十一節六〇四一
 四十二節六〇四二
 四十三節六〇四三
 四十四節六〇四四
 四十五節六〇四五
 四十六節六〇四六
 四十七節六〇四七
 四十八節六〇四八
 四十九節六〇四九
 五十節六〇五〇

りぬヨセフの兄弟等々の父の死たるを見ていひけるハヨセフあるハいわれらるを恨むるよしはあらん父が
ならずわれらに彼をなしたる諸の悪むむくゆるならんよしすなはちヨセフといひおくりけるハいなを
父死せるハ命じて言けらく故ら斯ヨセフといふハ汝の兄弟汝を悪をなしたれども我ハくいの罪
咎をゆるせよ然心願ハ汝の父の神の僕等の咎をゆるせよヨセフの言を聞て嘩泣ハ兄弟等もまた自ら
きたりヨセフの面のまへへ俯し我僕ハ汝の僕となんといふヨセフかれいひけるハ懼るなかれ我わ
お神みはらなや汝等ハ我を害せんともいれたれども神ハ之を善かからせ今日のごとき多の民の
生命を救ふわいたらしめんどももいとまへり故汝らおろさなかれ我なんぢらと汝らの子女をやし
なはんと彼等をなげめ懸お之かたれりヨセフ父の家族どももヨセフトおすめりヨセフハ百十歳
いさなふらへたりヨセフエラノの三世の子女をみるおいたれりヨセフの子女ハヨセフの孫もまた
てヨセフの孫ありきヨセフの兄弟等わいひけるハ我死ん神かならず汝等を眷顧みなんぢら此地
よりいだしてこのアラハムイサカヤコをお誓ひし地わいらしめたまへんとヨセフ神かならず汝等
をかへりみたりん故わが骨をてよりたづむべしといひてイラエルの子孫を誓ひしむ
ヨセフ百十歳おして死たればわが骨をてよりたづむべしといひてイラエルの子孫を誓ひしむ

- 一 創世記 二
- 二 創世記 三
- 三 創世記 四
- 四 創世記 五
- 五 創世記 六
- 六 創世記 七
- 七 創世記 八
- 八 創世記 九
- 九 創世記 十
- 十 創世記 十一
- 十一 創世記 十二
- 十二 創世記 十三
- 十三 創世記 十四
- 十四 創世記 十五
- 十五 創世記 十六
- 十六 創世記 十七
- 十七 創世記 十八
- 十八 創世記 十九
- 十九 創世記 二十
- 二十 創世記 二十一
- 二十一 創世記 二十二
- 二十二 創世記 二十三
- 二十三 創世記 二十四
- 二十四 創世記 二十五
- 二十五 創世記 二十六
- 二十六 創世記 二十七
- 二十七 創世記 二十八
- 二十八 創世記 二十九
- 二十九 創世記 三十
- 三十 創世記 三十一
- 三十一 創世記 三十二
- 三十二 創世記 三十三
- 三十三 創世記 三十四
- 三十四 創世記 三十五
- 三十五 創世記 三十六
- 三十六 創世記 三十七
- 三十七 創世記 三十八
- 三十八 創世記 三十九
- 三十九 創世記 四十
- 四十 創世記 四十一
- 四十一 創世記 四十二
- 四十二 創世記 四十三
- 四十三 創世記 四十四
- 四十四 創世記 四十五
- 四十五 創世記 四十六
- 四十六 創世記 四十七
- 四十七 創世記 四十八
- 四十八 創世記 四十九
- 四十九 創世記 五十

出埃及記

イラエルの子等のニソフトお至りし者名り左のおどし衆人各々の家族をたづさてヤ
ゴとともお至れりイサカヤ、レベエ、ヤコブ、イサハカル、ゼブルン、ニヤサシム、ガシム、
ヨナダブ、ガト、アセル、ナフタリ、マナセ、シムエオン、ルベーン、ジマ、ベンヤミン、ダビ
ム、ヨセフの兄弟の諸の兄弟がよび當世の八人死たりイラエルの子孫に子を生み彌増殖之甚しく大
に強くありて國も漸るわいたれり故ヨセフの事をさる新王ニソフトお起りしが彼らの民も
いひけるハ視よ此民イラエルの子孫われらよりも多く且強し來れわれら機巧く彼等お事おさん恐
入り彼等多からん又戦争の起ることある時ハ彼等敵おくとして我等と戦ひ遂々國よりいでざらんとす
なまお督者かれらの上お立て彼らをお重荷をおはせて之を苦しむ彼等パロのためお府庫の邑ニシム
セトを建てたり然るにイラエルの子孫ハ昔むむけるも随ひて増え殖たれれば皆これを懼れたりニソフト
イサカヤの孫ハその子孫を厳く動作かしめ辛き力役をもて彼等をして苦みて生を度らして即ち和泥、作
らば田圃の諸の工おはたらかしめけるが其勤かしめし工作ハ皆嚴なりきニソフトの王ハ
ニソフトの王ハ各くる者ニシムを各く見る者ハ二人お諭していひけるハ汝等ハアラエルの婦女のたれお收生をか
す所ハ床の上を見てろの子若男子あらばこれを殺せ女子あらば生しおくべし然るに產婆を畏れニ
ソフトの命せしごとく爲すして男子をも生しおけりニソフト王產婆を召て之わいひけるハ汝等亦
ん此事を亦し男子を生じおくやニソフト王言けるハアラエルの婦女ハニソフトの婦のごとくおらず彼
等ハ健して產婆のかれらお至らぬ前お産をいらるおりと是よりて神の產婆等も恩をばして

まへりはおわいて民増ゆきて甚だ強かりぬ 産嬰神を畏れたるによりて神かれらのためお家を成た
 入り斯在しかババロの凡の民お命じていふ男子の生るあつば汝等てれを誘く河を投のきよ女子の
 皆生じおくべし

第三節

愛おレビの家の一箇の人往てレビの女を娶れり 女姪みて男子を生みろの美きを見て三月の
 おひてこれを見せしがすでおこれを匿すあたひざるにいたりければ産の箱舟を之のために取て之に懸
 青と樹脂を塗り子をろの中お納ててを河邊の葦の中お置り 一の姉遙お立てろの如何にふるかを疑ふ
 汝にバロの女身を流んとて河にくだりろの姉等河の傍おわひひ彼葦の中お箱舟あるを見え使女をつか
 ひててこれを取きたらしめ これを啓きてろの子のむをを見る嬰児すかち啼く彼てれを憐みてひひけ
 るは是レバロの子ありと 時にろの姉バロの女にいひなるん我ゆきてレバロの女の中より此子をあ
 んたのために養ふべき乳母を呼きたらんか バロの女往よと之をいひければ女子すかち往てろの子の
 母を呼きたる バロの女かれあひひなるん此子をつれゆきて我ために之を養へ我ろの儲をかんちおどら
 せんと婦すかちろの子を取てこれを養ふ 却てろの子の長するおよびて之をバロの女の所にたづさ
 へゆさけれ心すかちこれ高きとある彼ろの名をモイセ(撥出)と名けて言ふ我てれを水より掬ひだせし
 に因ると 汝にモイセ生長におよびて一時いでろの兄弟等の所にいたりろの重荷を負ふを見じお置一
 箇のモイセ一人が一箇のイスラエル人即ちおのれの兄弟等を見つを見たれば 右左を飛まひして人のをら
 ざるを見てろのモイセ一人を撃てろし之を沙の中お埋め置せり 次の日また出て二人のヘブル人の相争
 ぶを見たればろの曲き者にもむかひ故なんか汝の隣人を撃つやといふに 彼いひけるん誰が汝を立てられ

レビ五二五節
 一節九
 二節九
 三節九
 四節九
 五節九
 六節九
 七節九
 八節九
 九節九
 十節九
 十一節九
 十二節九
 十三節九
 十四節九
 十五節九
 十六節九
 十七節九
 十八節九
 十九節九
 二十節九
 二十一節九
 二十二節九
 二十三節九
 二十四節九
 二十五節九
 二十六節九
 二十七節九
 二十八節九
 二十九節九
 三十節九
 三十一節九
 三十二節九
 三十三節九
 三十四節九
 三十五節九
 三十六節九
 三十七節九
 三十八節九
 三十九節九
 四十節九
 四十一節九
 四十二節九
 四十三節九
 四十四節九
 四十五節九
 四十六節九
 四十七節九
 四十八節九
 四十九節九
 五十節九

ら君と官判じしたるや汝かのモイセ人をとらせしてどく我をも殺さんとするやと是にいてモイ
 セ懼れてろの事かあらず知れたるならんとおもへり 巴ロ此事を聞てモイセを殺さんとするやとゆければモ
 1セすなりちバロの面をさげて逃げのびミリアンの地に住り彼井の傍お坐せり ミリアンの祭司ハセ
 の女子ありしは彼等來りて水を汲み水鉢お盈て父の羊群お飲はんとしける 彼羊者等きたりて彼ら
 逐はらひければモイセ起あがりて彼等をたすけろの羊群お飲ふ 彼等ろの父リサエルお至る所お言
 るん各日んなんぢら何ぞかく速おかへりしや かれらいひけるん一箇のモイセ人我らを牧羊者等の手
 より扱ひだじ亦われららために水を多く汲み飲したり 父女等おひひけるん彼ら何處おるや
 汝等かんぢらろの人を連れてきたりしや彼をよびて物を食ふよと 莫いせての人とともお居ることを好め
 り 汝すなはちろの女子カボラをモイセお與ふ 彼男子を生みければモイセろの名をガルシム(容)と
 名けて言ふ 我異邦お客とあかりをまななりと 斯て時をえる程ハニソトの王死りイニラニルの子孫ろ
 勞役の故によりて數き罷あろの勞役の故よりて數んどろの醫神お達りければ 神ろの長帥を聞き
 神ろのミアハム、イサク、ヤコブおしたる契約を憶て 神イスラエルの子孫を眷み神知りめしたる
 う

第三節

モイセろの妻の父ハニソトの祭司ニラロの群を收ひたりしがろの群を曠野の奥にみちび
 きて神の出ホレブに至る 二 出ホレブの使者棟の裏の火鏡の中にて彼にあらはる彼見るも棟火に燃せども
 ろの棟燼す 三 莫いせひひけるん我ゆきてこの大なる觀を見何故棟の燃たざるかを見ん 出ホレブが
 きたり觀んぞざるを見たぞ入即ち棟の中よりモイセよモイセよと彼をよびたまひければ我てくにおり

レビ二五二節
 一節九
 二節九
 三節九
 四節九
 五節九
 六節九
 七節九
 八節九
 九節九
 十節九
 十一節九
 十二節九
 十三節九
 十四節九
 十五節九
 十六節九
 十七節九
 十八節九
 十九節九
 二十節九
 二十一節九
 二十二節九
 二十三節九
 二十四節九
 二十五節九
 二十六節九
 二十七節九
 二十八節九
 二十九節九
 三十節九
 三十一節九
 三十二節九
 三十三節九
 三十四節九
 三十五節九
 三十六節九
 三十七節九
 三十八節九
 三十九節九
 四十節九
 四十一節九
 四十二節九
 四十三節九
 四十四節九
 四十五節九
 四十六節九
 四十七節九
 四十八節九
 四十九節九
 五十節九

